

3つの特色

明日の授業に役立てる！ 子どもの新しい姿を発見する学習評価

～パフォーマンス課題とルーブリックの作成・活用を踏まえた授業づくり～

最新の教育評価の知識をアップデートして、子どもたちの様々な学びや育ちを見取るためのパフォーマンス課題やルーブリックの作成と実践を踏まえた検討会を行います。

※令和6年度青森県教育委員会中堅教諭等資質向上研修（前期・後期）選択講座の代替としても受講できます

- 日時** ①令和6年8月6日(火) 及び②10月31日(木)
- 会場** 弘前大学 50周年記念会館 岩木ホール
- 対象** 公立及び私立学校教員、附属学校園教員、教職大学院現職教員院生
- 定員** 30名程度
- 講師** 若松大輔、中野博之、菊地一文他、教職大学院教員

前年度の様子



前年度参加者の声

実施したパフォーマンス課題について先生方と共有し、さらに生徒の力をつけるためどのように工夫したらよいかアドバイスを頂くことができ、充実した研修でした。学習評価についても、他校の実情を聞きながら参考になることが多かったです。改めて、授業と評価は表裏一体であるということを感じることができましたし、学校に戻って意図して授業改善に努めようと思います。

評価をする際、パフォーマンス評価という言葉は知っていても、具体的な内容はよく分かっていなかったのですが、今回の講座を通して内容をイメージすることや、計画を立てる道すじが分かりました。また、実際にやってみて、考えることを面倒くさっていた生徒も、考える行程や伝えることを楽しいかもと思うようになったので、講座で学んだことが、私にとっても生徒にとっても大きな実りになったと思います。

評価について、様々な教育雑誌や研修で学んでもいまいち現場で実際に行うとなるとしっくりこなかったが、今回の講義で理論から実践まで、理解が深まった。これならやれる、と思えるヒントをもらえたように思う。

新たな学びがたくさんありました。学んだことを実践してみても、困ったことを2回目の講座で共有できるのが良かったです。改善点も見つかったので、またチャレンジしてみたいと思います。ありがとうございました。

主催：弘前大学教職大学院 共催：青森県教育委員会

- ①「講義・演習 (input)」-「実践 (practice)・調査 (research)」-「報告・共有 (output・outcome)」形式で、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の受講者が校種を越えて協働的に学び合う。
- ②育成指標に基づいた「省察」をとおして自身の立ち位置や職能成長について確認できる。
- ③受講者の実践課題等を踏まえ、教職大学院教員がコンサルテーションとサポートを行う。

【1日目】

9:15 ~ 9:30	開会、趣旨説明 (アイスブレイク・自己紹介を含む)
9:50 ~ 11:00	講義1 「確かな学力を育てる学習評価」 弘前大学教職大学院 助教 若松 大輔
11:00 ~ 11:10	休憩
11:10 ~ 11:50	協議1 「学習評価をめぐる課題」 弘前大学教職大学院 助教 若松 大輔 他
11:50 ~ 12:40	昼食・休憩
12:40 ~ 14:10	演習1 「子どもの学びの見取り方・活かし方①-ルーブリック作成ワークショップ-」 弘前大学教職大学院 助教 若松 大輔 他
14:10 ~ 14:20	休憩
14:20 ~ 15:50	演習2 「子どもの学びの見取り方・活かし方②-パフォーマンス課題作成ワークショップ-」 弘前大学教職大学院 助教 若松 大輔 他
15:50 ~ 16:00	閉会

【2日目】

9:15 ~ 9:30	受付
9:30 ~ 9:50	開会・ガイダンス
9:50 ~ 12:10	実践報告・協議 「授業改善に向けた学習評価の活用」 ※グループ報告と全体共有、教職大学院教員による助言 (途中休憩を挟む)
12:10 ~ 13:00	昼食・休憩
13:00 ~ 14:10	講義2 「思考力を育てるための学習者主体の授業づくり」 弘前大学教職大学院 教授 中野 博之
14:10 ~ 14:20	休憩
14:20 ~ 15:30	協議2・まとめ 「今後の授業実践の充実に向けて」 弘前大学教職大学院 教授 菊地 一文、助教 若松 大輔 他
15:30	閉会、アンケート記入